

御嵩町人口ビジョンの一部改訂について

1. 人口ビジョン改訂の背景

平成26年に施行された「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、人口動向や将来人口推計の分析を踏まえた中長期の将来展望を提示するものとして、「御嵩町人口ビジョン」を平成27年10月に策定しました。「人口ビジョン策定にあたって」、「御嵩町の人口の現状分析」、「御嵩町の人口の将来展望」の3章から構成されています。

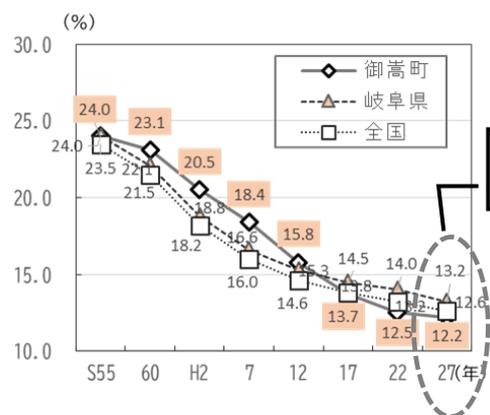
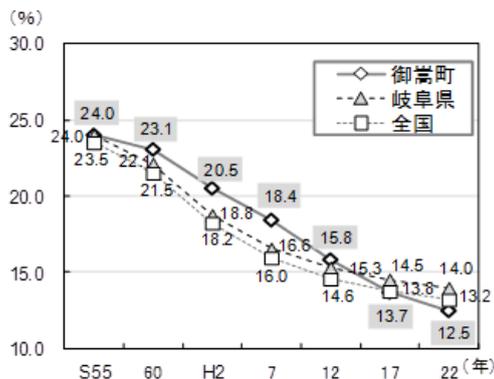
策定から4年半余りが経過し、現状分析について更新する必要性が出ていること、また、人口推計に対し現時点での状況について掲載が必要であることなどから、御嵩町人口ビジョンの一部改訂を行います。

2. 人口ビジョン改訂の内容

主な改訂の内容は次のとおりです。

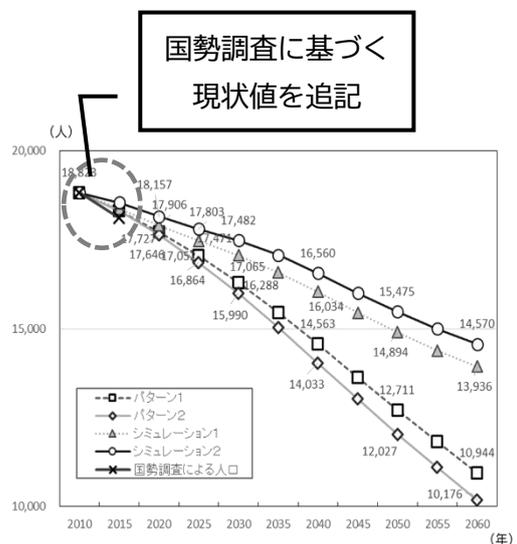
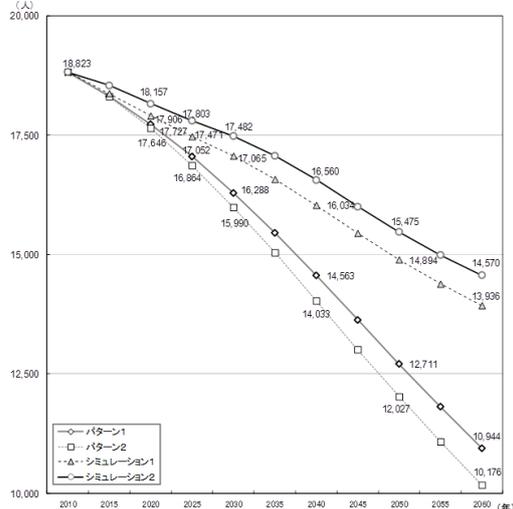
- ・各種グラフ等の更新及びそれに伴う分析の見直し

例：年少人口割合



- ・人口推計に対する現状分析

例：将来人口推計の比較



- ・「産業の状況」の分析に「稼ぐ力」の状況を追記
地域経済分析システム（RESAS）のメニューである「稼ぐ力分析」を活用し、産業大分類ごと従業員ベースと付加価値額による特化係数から、新たな分析を行った。

3. 現状分析の結果概要

【総人口等】

- ・人口減少の傾向が続き、全国的な傾向と同様に少子高齢化が進んでいる。
- ・自然増減（出生、死亡等によるもの）、社会増減（転出入等によるもの）ともに減少が続いている。

【出生】

- ・有配偶率の推移は低下を続けていたが、平成 27 年の国勢調査結果を踏まえると、男女とも 30 歳代前半までにおいては下げ止まりの傾向もみられる。
- ・女性の労働力率が高い傾向は続いている。

【移動】

- ・転出者の移動理由は職業、学業、結婚等によるものが多く、男女とも進学・就職期の転出が多い傾向は続いている。
- ・名古屋市をはじめとする愛知県に対して転出超過が大きい状況が続いている。
- ・町内工業団地における町内居住者雇用率は減少が続いていたが平成 28 年を底に上昇に転じた。

【産業】

- ・当町の産業は依然として製造業への特化が大きい。製造品出荷額等や商品販売額は増加傾向が続いている。
- ・観光入込客数は平成 23 年以降ほぼ横ばいの状況だったが、平成 28 年から 30 年にかけては減少が続いている。

【人口推計に対する現状】

- ・2015 年時点では、国勢調査による人口はいずれの推計パターンよりも減少幅が大きい状況になっている。
- ・一方で、年少人口割合はいずれの推計パターンよりも減少幅が小さく、長期的な人口減の抑制に向けて継続していく必要があるとともに、将来的な転出を抑制するための雇用などの施策も必要である。